

ベルトコンベヤ

鉱石等のバラ物を大量かつ安定的に長距離輸送する方式として用いられます。鉱山開発からスタートした経験から、鉱山や工場で多くの実績を有し、近年ではトンネル工事等の公共事業における土砂搬送用としても採用されています。橋梁工事で培ったノウハウを活かし、全体設計、製造、施工、運転管理までできることが当社の強みです。



株主の皆様へ

第150期中間(第2四半期)のご報告

2016年4月1日 ~ 2016年9月30日

CONTENTS

古河機械金属グループの 経営理念と事業領域	1
株主の皆様へ	2
特集：大規模土砂搬送に貢献する 古河機械金属のベルトコンベヤ	3
事業部門別の概況	5
Topics	6
会社概要及び株式の状況	7

理解促進コンテンツの紹介

当社を知っていただくためのコンテンツとして、YouTubeに動画をアップしています。140年超の歴史と今を紹介する会社紹介映像や、インフラ整備に関わる機械製品群を紹介する映像等がご覧いただけます。



古河機械金属FKKplanet
公式YouTubeチャンネル
[https://www.youtube.com/
user/FKKplanet](https://www.youtube.com/user/FKKplanet)

Google 検索 FKKplanet 動画

FURUKAWA
古河機械金属株式会社

証券コード：5715

古河機械金属グループの経営理念と事業領域

古河機械金属グループは、創業140周年を迎えた2015年8月8日に経営理念、行動指針を刷新し、また同年11月に創業150周年に向けた2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」を策定しました。Power（力強さ・スピード）とPassion（熱意・情熱）をもってビジョン達成に邁進します。

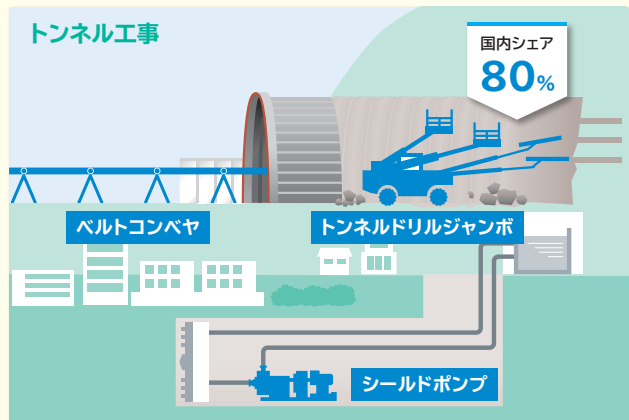


2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」

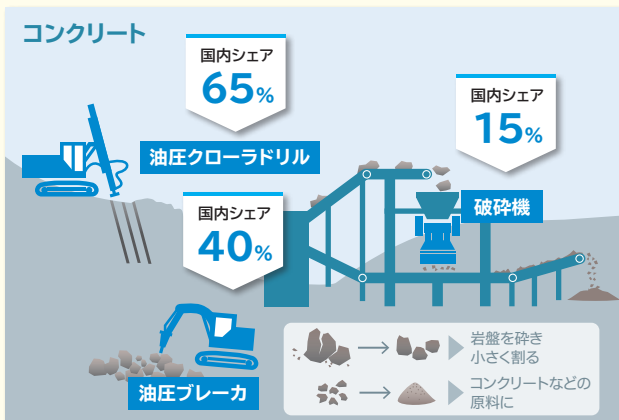
『カテゴリトップ・オンリーワンを基軸として成長する企業グループの実現』

—創業150周年を迎える2025年度に向けて、連結営業利益150億円超の常態化を目指します—

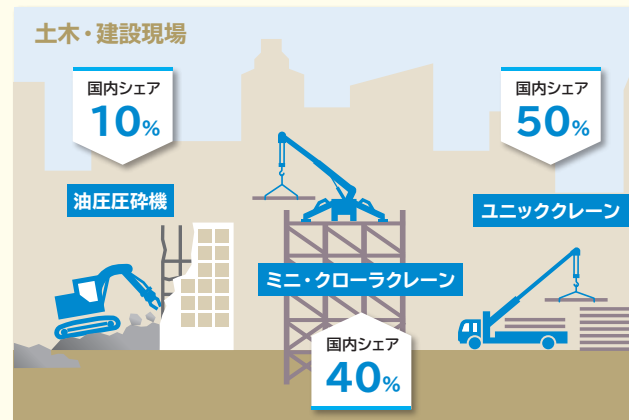
■ 注力する機械事業領域



山岳トンネル工事で岩盤発破のための火薬装填用の孔を開けるトンネルドリルジャンボ、地下トンネル工事で掘削された土砂を水で地上へ圧送するシールドポンプ、大量の土砂を効率よく搬送できるベルトコンベヤ等を供給。



コンクリート原料である砕石や石灰石の採掘現場で、岩盤を発破して崩すための火薬装填用の孔を開ける油圧クローラドリルや発破後大きな岩石を小割する油圧ブレーカ、砕石プラントで岩石を砕いて小さく揃える破碎機やスクリーン等を供給。各地のコンクリート需要に貢献。



建築資材等の運搬と積み降ろし作業が1台のできるユニッククレーン、トラックが入り込めない場所に自走して作業できるミニ・クローラクレーンのほか、解体現場では油圧圧砕機が活躍。優れた機能性・操作性・安全性を備え、環境に配慮した建設機械を供給。

経営理念 古河機械金属グループは、鉱山開発に始まり社会基盤を支えてきた技術を進化させ、常に挑戦する気概をもって社会に必要とされる企業であり続けます。

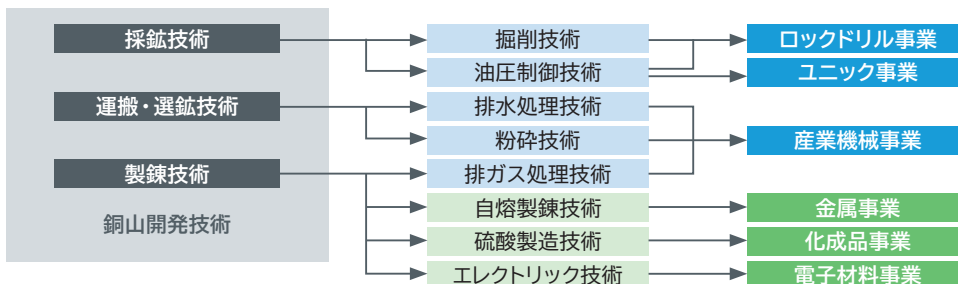
行動指針 私たちは、経営理念を実現するために、「運・鈍・根」の創業者精神を心に刻み、「変革・創造・共存」を行動指針として実践します。

変革： 未来に向けた意識改革により絶えざる自己革新を行う。

創造： 市場のニーズに対応し、信頼され、魅力あるモノづくりを目指す。

共存： 経営の透明性を高め、環境と調和した社会の発展に貢献する。

■ 古河機械金属技術の系譜



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第150期第2四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年9月30日まで）の決算の概要をご報告申し上げます。



■ 経営環境と業績について

当該期間の日本経済は、景気に弱さがみられたものの緩やかな回復基調が続きました。一方、企業業績の改善には足踏みがみられ、依然として中国をはじめとするアジア新興国と資源国など海外景気の下振れによる国内景気の下押しリスクや、英国のEU離脱問題など不確実性の高まりに注意を要する状況となりました。

こうした経済環境のもと、当社グループの売上高は702億200百万円（対前年同期比161億65百万円減）、営業利益は28億98百万円（対前年同期比11億1百万円減）となりました。売上高は主に産業機械事業、ロックドリル事業、ユニック事業、金属事業で減収となり、営業利益は主に産業機械事業、ロックドリル事業、ユニック事業の減収により減益となりました。経常利益は17億74百万円（対前年同期比14億73百万円減）となりました。特別損失に減損損失1億1百万円ほかを計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億98百万円（対前年同期比13億42百万円減）となりました。

2017年3月期の連結業績は、売上高1,460億円、営業利益60億円、経常利益57億円、親会社株主に帰属する当期純利益35億円を予想しております。配当は期初予想の通り中間配当は行わず、期末配当予想を1株当たり5円とさせていただきます。

■ 中長期的な戦略について

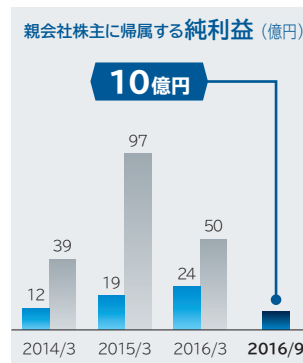
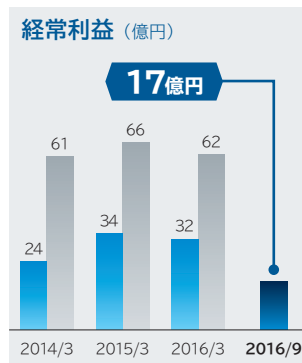
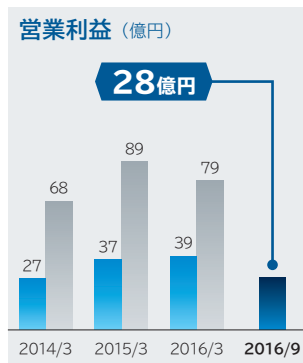
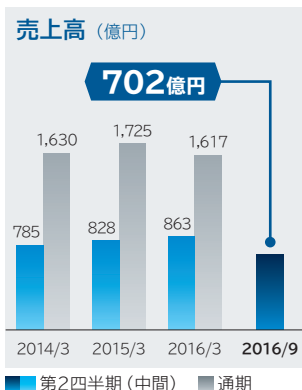
当社グループは、前年より「カテゴリートップ・オンリーワンを基軸として成長する企業グループの実現」を見据え、2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」をスタートさせています。これは、創業150周年を迎える2025年度に向けて当社グループの進むべき方向性を明確化し、連結営業利益150億円超の常態化を目指すものです。このビジョン達成の方針として、①『マーケティング経営』による古河ブランドの価値向上、②機械事業の持続的拡大、③人材基盤の拡充・強化、④企業価値向上に資する投資等の積極的推進、⑤経営基盤の整備を掲げ推進しております。この方針に基づいて現在、各事業で中期経営計画2017-2019の策定に取り組んでおり、ステークホルダーの皆様ごの期待に応えて一層の信頼獲得に努めてまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月

代表取締役社長

宮川尚久



特集

大規模土砂搬送に貢献する 古河機械金属のベルトコンベヤ

従来、土木・建設工事などで発生する大量の土砂搬送には、ダンプトラックが使用されてきました。ところが最近では、運転手不足や周辺環境への悪影響など、さまざまな問題が顕在化。そこで注目されているのが、ベルトコンベヤです。鉱山開発を起源に長く培ってきた古河機械金属の経験と技術は、陸前高田市の震災復興事業でも有用性を発揮し、今また土砂搬送方法として見直され、期待が高まっています。

ダンプトラックでの搬送の課題をベルトコンベヤで解決

さまざまな課題を抱えるダンプトラックでの搬送

これまで土砂の搬送には当たり前前に使用されてきたダンプトラックですが、昨今、運転手の労働環境の厳しさから若手の就業が少なく、高齢化も進んでおり、運転手人口は年々減少。運転手の確保は、難しくなってきました。さらに、工事期間中はダンプトラックの往来が激しくなるため、周辺道路の交通渋滞や交通事故の懸念に加え、埃やCO₂排出による周辺環境の悪化も大きな問題になっています。

こうした多くの問題を解決した上で、大量の土砂搬送が行える方法として最近、注目を集めているのが、ベルトコンベヤです。

土砂搬送の課題を一気に解決するベルトコンベヤ

土砂が大量になればなるほど、ベルトコンベヤによる搬送はダンプトラックより効率が高まり、工期が短縮できます。例えば当社は、過去に1時間に最大6,000tの土砂を約3km搬送するベルトコンベヤを設置しました。これと同じ作業を10tダンプトラックで行うためには、1時間あたり600台で土砂の積載から運搬まで終わることが必要になり、現実的に不可能です。

また、ベルトコンベヤは設置後、運転管理者など少数で運用できるため、省人化が可能です。ダンプトラックのように、工事が終わるまでの長期間にわたって運転手を確保し続ける必要もありません。さらに、周辺道路にダンプトラックの往来がないため、交通渋滞や交通事故の心配がなく、CO₂の排出量も大幅に削減できます。このように土砂搬送における課題を一気に解決するのがベルトコンベヤです。

ダンプトラックでの 土砂搬送における社会課題

- ✓ 運転手が不足
- ✓ 搬送路周辺地域の渋滞、事故
- ✓ 埃やCO₂排出による環境問題

ベルトコンベヤでの 課題解決

- ✓ ダンプトラックと比べ工期短縮が可能
- ✓ 関わる人員削減
- ✓ 渋滞・事故回避
- ✓ CO₂を大幅削減

豊富な経験とノウハウによる総合力が古河機械金属の強み

土砂搬送においてベルトコンベヤへの注目が高まるなか、当社の強みの一つは、これまでの豊富な経験です。鉱山開発を起源にしている当社は、石灰鉱山や製鉄所等における鉱物の運搬において、長距離・大容量コンベヤやカーブがきつい場所に対応した曲走コンベヤ、荷こぼれを防止するパイプコンベヤなど、多数の生産・納入実績を有しています。また、当社グループ会社に石灰鉱山を経営する大分鉱業株式会社があり、そこでの設置実績や運営経験が業界をリードする搬送技術の構築に役立っています。さらに、ベルトコンベヤのほかにも、船積みを使用するシップロード等の付随設備も生産・提供しており、さまざまな搬送ニーズに応えることが可能です。

そして、もう一つ大きな強みが、橋梁事業で培ったノウハウです。長く橋梁工事に携わってきたことで得られる現場施工技術が加わることで、単なるベルトコンベヤメーカーとしての生産・納入にとどまらず、工事の全体設計から、施工、運転管理まで、一括で請け負うことが可能です。この力とベルトコンベヤの設計開発力を融合することで、公共事業などの大型案件にも対応でき、お客様の抱える問題を解決し、寄せられる高い期待や厳しい要求に対してトータルに応えることができるのです。この豊富な経験とノウハウによる総合力が当社の強みとなっています。



長距離・大容量曲走ベルトコンベヤ



パイプコンベヤ

事例 陸前高田市の高台移転工事による大量の土砂搬送を短工期で実現

構成部品のユニット化で生産効率を高め、現場の組立作業も簡単にしたことで、ベルトコンベヤ設置工事は約1年強で完了。工事で発生した約500万m³（東京ドーム約4個分）の土砂を、総延長約3km・搬送能力6,000t/hの長距離・大容量ベルトコンベヤで搬送した結果、実質約1年半で終了。ダンプトラックだと9年かかると言われていた土砂搬送の全体工期を、設置工事を含め約3年の1/3に短縮しました。

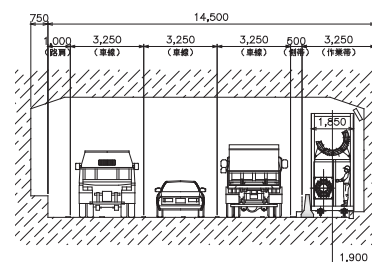
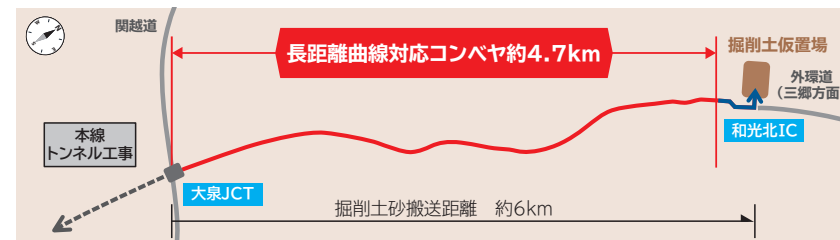


今後の展望

日本初、稼働中の高速道にベルトコンベヤを設置 外環道トンネル工事での土砂搬送用として採用

東京外環自動車道（外環道）において、大泉JCTから南へ延伸するトンネル工事から発生する土砂搬送に、日本で初めて稼働中の高速道脇にベルトコンベヤを設置する計画が進んでいます。そのメイン区間の設置を当社が担当することになりました。設置するベルトコンベヤは、最大曲率半径700m、複数のカーブ区間を含む総距離4.7kmを1本でつなぐもの。これを実現するためには、ベルトの最大張力35tとモータ動力2,000kWという前例のない大張力と大動力が必要になり、完成すれば世界最大級となるものです。さらに、交通渋滞を避けるため、現状の片側3車線は確保したまま路肩へ設置するほか、荷こぼれの防止や、コンベヤベルトの強度・安全性など、数多くの厳しい要件に応えるため、当社ではこれまでに蓄積してきた多くの技術と実績に基づいて設計、施工実施策を提案。当社のベルトコンベヤによりダンプトラックでの搬送と比べ、渋滞・事故回避はもちろんCO₂削減等の周辺環境配慮に大きく貢献するとして、これから始まる工事での期待が高まっています。

ベルトコンベヤの設置ルート



設置イメージ



設置するベルトコンベヤの仮設

※表紙の写真は外環道トンネル工事向けベルトコンベヤを仮設した様子です。

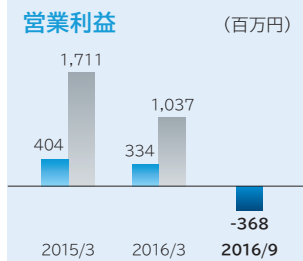
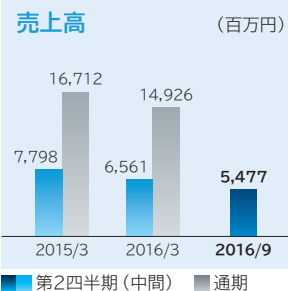
事業部門別の概況

MACHINERY

産業機械事業



東京外環自動車道工事向けベルトコンベヤの売上を計上しましたが、陸前高田市の高台移転工事での土砂搬送が2015年9月中旬に完了したことや、橋梁の売上が振るわず、大幅な減収となりました。

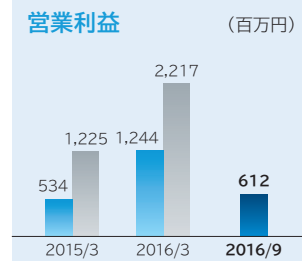
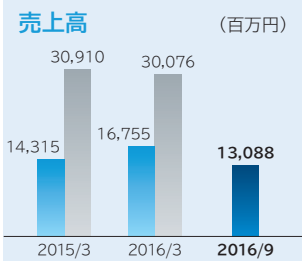


■ 第2四半期(中間) ■ 通期

ロックドリル事業



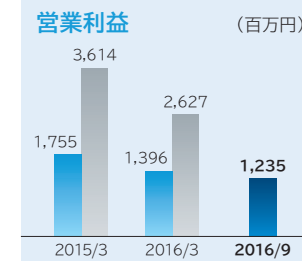
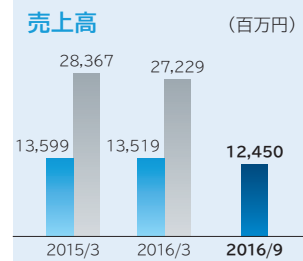
国内は、建設投資が伸びず、油圧ブレーカの需要が減少しました。海外は、原油価格の低迷などを背景に需要が弱く、油圧ブレーカ、油圧クローラドリルともに出荷が低調でした。



ユニック事業



主要製品のユニッククレーンは、トラック搭載型クレーンの搭載対象となる平ボディー車の登録台数が伸び悩み、大型レンタルの需要減もあって、出荷台数が減少しました。

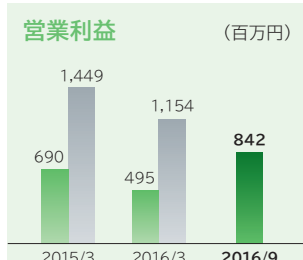
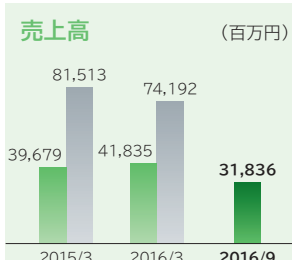


MATERIAL

金属事業



伸銅需要は回復基調にありますが、電線需要は低調で、電気銅の販売数量は46,542トン(対前年同期比1,509トン減)となりました。電気銅海外相場の下落と円高により、大幅な減収となりました。

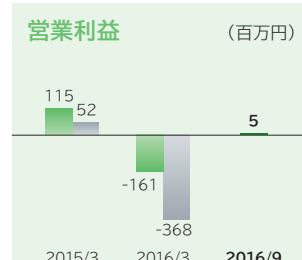


■ 第2四半期(中間) ■ 通期

電子材料事業



主力の高純度金属元素は原発事故風評被害の影響により未だ苦戦が続く一方、結晶及びコイル製品は増収となりました。



化成事業



亜酸化銅は主要用途である船底塗料の需要が大きく減少したことにより、減収となりました。



古河機械金属PV 陸前高田プロジェクトムービー

YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=wqcJY-t8U9E>

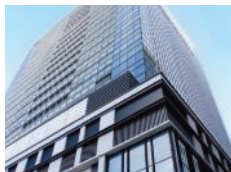
陸前高田市の高台移転復興事業で活躍した古河機械金属グループの技術・製品の数々…



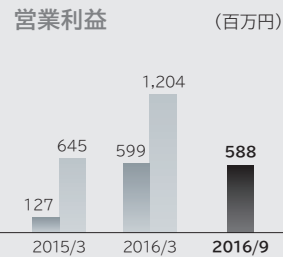
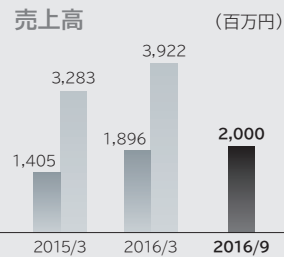
鉱山開発で培った技術が復興事業にどう関わったかを3分間のダイジェスト映像で紹介!

OTHERS

不動産・その他



不動産事業は、主力の室町古河三井ビルディング (COREDO室町2) が順調に稼働し、売上高は15億45百万円 (対前年同期比17百万円増)、営業利益は6億54百万円 (対前年同期比11百万円増) となりました。



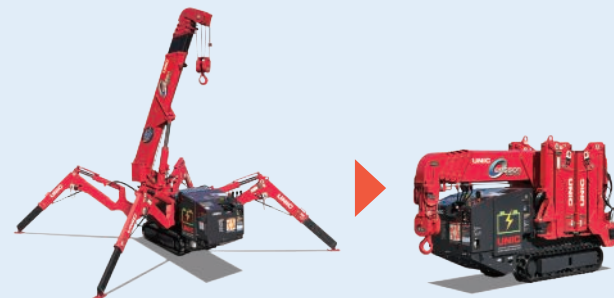
■ 第2四半期 (中間) ■ 通期

Topics

バッテリー式2.93t吊りミニ・クローラクレーン『UR-W295CBR』を新発売

古河ユニック株式会社は「ゼロ・エミッション」クレーンをコンセプトに、業界初となる完全電動化を実現したバッテリー式のミニ・クローラクレーン『UR-W295CBR』を10月3日より販売開始しました。バッテリーを内蔵し完全電動化したことで、騒音や排気ガスのない快適な環境で作業することができ、また外部電源も不要となるため、活躍の場が広がりました。

バッテリー残量が0%になった場合の「予備バッテリーモード」や待機状態が一定時間続くと自動的に電源OFFになる「クレーン電源自動停止機能」、抜群の操作性を誇る「連動ラジコン」や「転倒防止装置」などユニック独自のさまざまな快適・安心機能を搭載しています。



コイル加工会社FD Coil Philippines, Inc.が本格量産を開始

古河電子株式会社は、フィリピンに設立済みの車載向けコイルの加工子会社FD Coil Philippines, Inc. において、コイル製品の本格量産を7月より開始しました。コイル製品は、電動パワステやエンジンコントロールユニット、電気自動車の充電器等に多数使用されており、近年の自動車の電子制御化に伴う需要の増加により、販売量を増やしてきました。



従来、中国で委託加工を行っていましたが、カントリーリスク回避や採算改善を目的として、2014年9月に同社を設立し、フィリピンでの各種許認可の取得手続きを進めてきました。このほど許認可取得が完了し、ユーザーの承認を得ることができたことから本格量産が可能となりました。今後は車載向け電子制御ユニットに使われるフィルタコイルの加工能力を段階的に引き上げていく予定です。

会社概要及び株式の状況 (2016年9月30日現在)

会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.

- 創 業 1875(明治8)年8月
- 設 立 1918(大正7)年4月
- 資 本 金 282億818万円
- 従 業 員 数 2,630名(連結)
- 本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)
電話(03)3212-6570

取締役及び監査役

- | | |
|-----------|-------|
| 代表取締役会長 | 相馬 信義 |
| 代表取締役社長 | 宮川 尚久 |
| 専務取締役 | 松本 敏雄 |
| 常務取締役 | 岩田 穂 |
| 社外取締役 | 吉田 政雄 |
| 独立社外取締役 | 友常 信之 |
| 取 締 役 | 松戸 茂夫 |
| 取 締 役 | 三村 清仁 |
| 常 勤 監 査 役 | 江本 善仁 |
| 常 勤 監 査 役 | 猿橋 三郎 |
| 社 外 監 査 役 | 上野 徹郎 |
| 社 外 監 査 役 | 山下 雅之 |

執行役員

- | | |
|--------|-------|
| 上級執行役員 | 松戸 茂夫 |
| 上級執行役員 | 三村 清仁 |
| 上級執行役員 | 井上 一夫 |
| 執行役員 | 久野 佳成 |
| 執行役員 | 阿部 裕之 |
| 執行役員 | 佐野 喜芳 |
| 執行役員 | 名塚 龍己 |
| 執行役員 | 荻野 正浩 |
| 執行役員 | 宮嶋 健 |
| 執行役員 | 宮崎 治 |
| 執行役員 | 川下 勝平 |

古河機械金属グループ

機械事業	産業機械事業	古河産機システムズ(株)
	ロックドリル事業	古河ロックドリル(株)
	ユニック事業	古河ユニック(株)
素材事業	金属事業	古河メタルリソース(株)
	電子材料事業	古河電子(株)
	化成品事業	古河ケミカルズ(株)
その他事業	不動産事業ほか	古河機械金属(株)

FURUKAWA CO.,LTD.

WebサイトでもIR情報をご覧ください!

株主・投資家情報ページ

<http://www.furukawakk.co.jp/ir/>

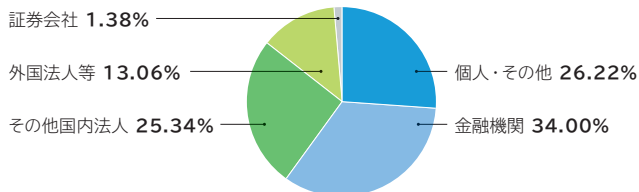


株式の状況

株式

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式の総数	404,455,680株
株主総数	24,271名

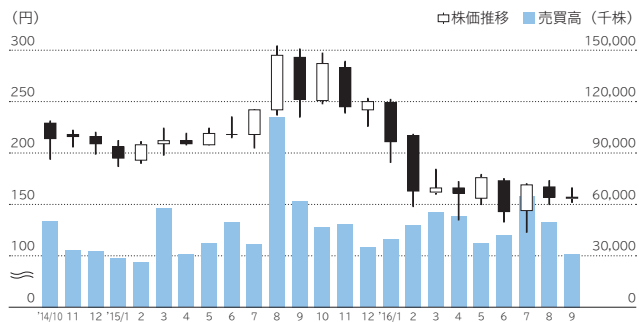
所有者別株式構成



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	26,807	6.62
朝日生命保険相互会社	23,734	5.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	21,613	5.34
清和総合建物株式会社	15,034	3.71
横浜ゴム株式会社	13,411	3.31
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	10,756	2.65
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
中央不動産株式会社	6,877	1.70

株価の推移



株主メモ

- 本社
〒100-8370 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
電話(03)3212-6561(法務部)
- 事業年度の末日 3月31日
- 定時株主総会 6月
- 定時株主総会の基準日 3月31日
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- 期末配当の基準日 3月31日
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- 公告掲載のホームページ <http://www.furukawakk.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- 単元株式数 1,000株
- 株主名簿管理人
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先及び各種お問合せ先
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話(0120)782-031(フリーダイヤル)

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

